

# 海からのメッセージ

～赤ちゃんアジやあびきのお話～

共催：西海区水産研究所・長崎海洋气象台 協賛：長崎市立図書館

## 平成21年9月6日（日）

●開演：14時～16時（開場：13時30分）

入場無料  
（先着順）

●場所：長崎市立図書館 多目的ホール

■予約は不要ですが、先着順（150名）です。

東シナ海に面している長崎県は、水産業が非常に盛んで、日本有数の漁獲量を誇っています。海には、魚をはじめ様々な生き物が住んでおり、それらは海水温や海流など海の様子と深く関係しています。そこで、西海区水産研究所と長崎海洋气象台では、身近な海をもっと知っていただくために、「海からのメッセージ」と題して、海の生き物や海洋のふるまいに関連するお話を共同で行うことにしました。是非ご来場ください。

- ★「東シナ海に仔稚魚<sup>しちぎよ</sup>を求めて ―フィールド研究の大切さ―」  
（独）水産総合研究センター 西海区水産研究所 東シナ海漁業資源部  
主任研究員 佐々 千由紀<sup>さっさ ちゆき</sup>
- ★「副振動のなぞ ―‘あびき’ってなに？―」  
長崎海洋气象台 海洋課  
主任技術専門官 岡田 良平<sup>おかだ りょうへい</sup>



●場所  
長崎市立図書館 多目的ホール（長崎市興善町1-1）

●交通  
路面電車：  
五島町電停下車 徒歩7分、桜町電停下車 徒歩5分、  
賑橋電停下車 徒歩5分

バス：  
市役所方面行き興善町バス停下車 徒歩1分

問合せ先：長崎海洋气象台 業務課 TEL：095-811-4862

（独）水産総合研究センター<sup>せいがいく</sup> 西海区水産研究所 業務推進課 TEL：095-860-1600

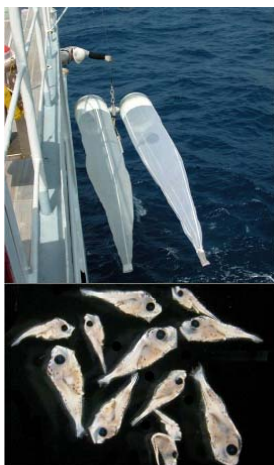
# お話の概要

今回は、私たちの食生活に欠かせないアジの仔稚魚しちぎよ（さかなの赤ちゃん）の生態、および、潮位が短時間に大きく変動する副振動（あびき）と呼ばれる不思議な現象について、それぞれの分野の専門家が分かりやすくお話しします。どちらも長崎県に大変関係が深いお話です。

## ★「東シナ海に仔稚魚しちぎよを求めて-フィールド研究の大切さ-」

（独）水産総合研究センター 西海区水産研究所 東シナ海漁業資源部

主任研究員 佐々 千由紀



陸から海を眺めても、見えるのは海面ばかりで、その下にどのような種類の生物が分布し、生活しているのか、私達が直接的に観察し、それを感覚的に理解する機会は非常に限られています。広大な海の中での出来事を知るためには、実際に船で海に乗りだし、フィールドで調査研究を行うことが不可欠です。私達の研究所では、マアジをはじめ多くの水産重要魚の産卵場が形成される東シナ海において、仔稚魚を求めて調査航海を実施しています。「仔稚魚」とは、卵からふ化してまだ間もない「魚の赤ちゃん」のことで、その大きさは数ミリから数十ミリしかありません。仔稚魚を調べることで、どの種類の魚が、いつ、どこで、どれくらい生まれるのか、どの様に海流に流され日本の漁場にやって来るのか、など様々な情報が得られます。講演では、調査航海の体験談も交えながら、長崎県に最も身近な海の一つである東シナ海を舞台に、仔稚魚の生態について紹介します。

## ★「副振動のなぞー‘あびき’ってなに？」

長崎海洋气象台 海洋課 主任技術専門官 岡田 良平



浦上川を逆流（遡上）する‘あびき’

今年2月に、九州西岸を中心に短時間に大きな潮位変化が起き、熊本県や鹿児島県で小型船舶の転覆や家屋への浸水被害が発生しました。長崎市でも浦上川を水が逆流（遡上）する様子が見られました。いずれも、全国的なニュースになったので、覚えていらっしゃる方が多いのではないのでしょうか。また、つい先日（7月15日）にも対馬から山陰にかけて、同じ現象により浸水などの被害が発生しました。これらは、「副振動」という現象で、長崎では「あびき」と呼ばれ、過去には長崎港でも被害が発生したことがあります。气象台では、現象の実態解明のため、直ちに現地調査も行ったところですが、この不思議な現象の発生のしくみ、今年の事例でみられた被害や浦上川での逆流の様子（ビデオ映写）などについてお話しします。